



## “白内障”について

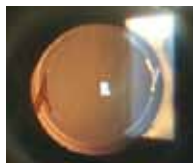
人の目をカメラにたとえると、カメラのレンズが「水晶体」で、フィルムが目の奥にある光を感じる神経の膜である「網膜」です。水晶体は若い頃は無色透明ですが、年をとるに従って濁りが出てきます。その水晶体が濁った状態を「白内障」と言います。白内障の主な原因は加齢ですから、60才以上の方は白内障があるかと聞かれれば、誰でもあると言わざるを得ません。白髪と同じです。

では、白内障の自覚症状とは、どの様なものでしょうか。初期の頃は、視力は十分にありますが、目の外から入る光が水晶体の濁りのために散乱して、明るいところで眩しさを強く感じるようになります。このような症状を自覚したら、白内障が出てきていないか一度眼科を受診することをお勧めします。そして、さらに白内障が進行すると視力が低下してきます。

治療法としては、目薬と手術がありますが、白内障の目薬は残念ながら現在のところ、白内障の進行をゆるやかにする力しかなく、目薬で治すことはできません。完全に白内障を治すには、手術しかありません。



「白内障術前」



「白内障術後」

**手術を行う時期は？** 昔は、手術の安全性が十分でなかったため、視力がよほど下がらない限り手術は行いませんでした。しかし、最近では、白内障手術の安全性が高まったため、逆に早めの手術を勧めます。その方が、見づらいのを我慢する時間が短くなり、生活の質が向上するからです。手術を行う時期は、ご本人がまぶしさや見づらさを感じた時です。

**手術後の診察は？** 術後は、手術翌日、3日目、1週間目、2週間目、1カ月目、以後1ヶ月に1回の診察を行います。ごくまれにですが、目にバイ菌が入って感染症を起こすこともあるので、最低このぐらいの診察が必要となります。

## 白内障の手術

最近の白内障手術は、ここ10年の手術技術と手術機器の進歩により、大変安全なものになりました。入院も必要なく、日帰りでも十分安全に行えます。麻酔は、昔のような針を用いた麻酔は行わず、99%の症例で目薬の麻酔で行い、ほとんど**無痛**です。手術時間は、目に特に白内障以外問題なく術中合併症がない症例で、院長が執刀した場合**5分～10分**程度です。

### ■ 1万例を超える豊富な手術実績

院長杉浦の白内障手術施行症例数は、2010年6月1日現在で1万例を超えました。当院開院以後7004例、当院開院以前に3211例を行いましたので、合計10215例の白内障手術を施行しています。

この豊富な手術経験に基づき、より安全かつ正確な白内障手術を追求しています。

### 手術のやり方は次のとおりです。

- 1 目の角膜のすみに3mm程度のごく小さな切開を入れます。
- 2 水晶体は水晶体嚢という薄い透明な袋に包まれているので、水晶体嚢の前面を円形に切開します。
- 3 次に濁った水晶体を取り出します。水晶体を**Central Divider**という、**院長杉浦が開発した器具**によって分割した後、直径1mm程度の金属製の筒から超音波を発振し水晶体を砕きながら吸引します。
- 4 水晶体嚢にこびりついた濁りを吸引して、水晶体嚢内をきれいにします。
- 5 空になった水晶体嚢内にインジェクターを用いて（レンズを折りたたんで）人工レンズを移植します。
- 6 目の中を良く洗浄して手術は終了です。

